

【研究協力のお願ひ】

研究課題：当院における分娩誘発剤(プロウペス®)使用症例の検討

【研究責任者】

総合守谷第一病院 産婦人科

平澤亮子

【研究の背景】

より安全な分娩管理を目指す目的で自然に陣痛発来しない場合、多くの施設で分娩誘発を試みております。従来、分娩誘発の方法として①子宮頸管熟化不全(陣痛誘発のための子宮頸管の準備ができていない状態)がある場合は器械的子宮頸管熟化法を行い、②それでも陣痛が起こらなかつた場合は陣痛促進剤(オキシトシン、プロスタグランディン F2 α)の点滴投与を行ってまいりました。こうした中で2020年4月2日より新たなる分娩誘発剤としてジノプロストン臍内留置用製剤(以下：プロウペス®)が発売され、当院でも2020年8月1日より使用開始となりました。プロウペス®は子宮頸管熟化と陣痛促進剤の両方の効能があると言われており、子宮頸管熟化としては器械的子宮頸管熟化法と比較して挿入時の痛みが少なく、処置に伴う子宮内感染のリスクも少ないというメリットがあります。その一方で、陣痛促進剤としては過強陣痛やそれに伴う胎児機能不全のリスクもあり注意が必要となります。使用開始より3年経過し、プロウペス®を使用させていただいた患者様も増えてまいりました。そこでこれまで当院でプロウペス®を使用した患者様の詳細を検討し、それを医療系の学会で発表することでより多くの施設において、より安全で患者様への身体的負担の少ない分娩管理を行えることを目的として下記の研究を行うことといたしました。

【研究の目的】

当院でプロウペス®を使用した症例についての有効性、よりよい使用方法について詳細に検討し、すでにプロウペス®を導入している施設においてはプロウペス®をより有効に使用していただき、より安全な分娩管理となるよう使用する症例や使用方法について検討していただく。まだプロウペス®を導入していない施設においてもプロウペス®使用の実際についての知識を深めていただく。

【研究対象となる患者様】

2020年8月1日から2023年7月31日の期間に当院でプロウペス®を使用された患者様

【研究の方法】

当該の患者様の電子カルテにすでに記載された診療記録の調査により、以下の診療データを抽出します。

患者様のご年齢、経産回数、プロウペス®を使用された妊娠週数、分娩誘発となった適応、プロウペス®を挿入した前後の診察所見、プロウペス®を挿入していた時間、その後の分娩様式、他の器械的子宮頸管熟化法や陣痛促進剤の使用の有無など。

なお、本研究で得られた情報を他の研究で利用することはありません。

【個人情報の取り扱い】

研究に利用する情報には個人情報が含まれますが、院外に発表する際には患者様個人を特定することのできる情報(氏名・診療 ID など)を削除して研究独自の被験者識別コード(研究用 ID)を付与することで匿名化を行います。

【個人情報の取り扱い】

研究に利用する情報には個人情報が含まれますが、院外に発表する際には個人を特定できる情報は削除します。

【お問い合わせ先】

総合守谷第一病院 産婦人科

平澤 亮子

(住所) 〒302-0102 茨城県守谷市松前台 1-17

(代表番号) 0297-45-5111

患者様やご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止をご希望される場合は、上記の問い合わせ先へご連絡ください。

すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。